

# 双松会会報

第36号「双松会」通巻40号「松高北高同窓会報」通巻40号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888  
FAX: 0852-21-4977  
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティー

Vol.13

普通科24期・理数科3期  
(昭和48年卒)

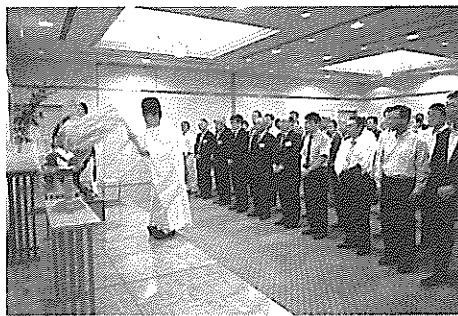
## 旧交を暖めるに止まらず

70年代の幕明け、「こんにちは  
こんにちは」世界の国から」と  
明るい歌声の流れる中、松江北  
高に入学したのは45年前！モ  
ノクロのアルバムを開くと、爽  
やかな笑顔が今も輝いています。  
そんな昭和の少女少女達も、  
各々の人生ドラマの主役を演じ  
ながら、ついに還暦を迎えたこ  
とから、昨年9月、記念同窓会  
を開きました。

「本卦選りを祝う同窓会を企画  
中です」という年賀状を午年の  
年頭に発送し、いよいよ具体的  
な準備にかかりました。

今回は、年に数回、松江市内  
で酒宴を催していたメンバーを  
中心に幹事となり、喧嘩諍議  
もとい、和気満満と打合せを重  
ね、迎えた当日。総勢409名  
の内、往復ハガキ(何ともアナ  
ログ)を出したのが約90%、そ  
の内約80%から返信が届き、  
130名出席、当日キャンセル  
無しは中々に上々かと。

会場ロビーでは、集合時間前  
から「やあ!」「あー」といく  
つもの輪ができ、受付業務いっ  
こうにはかどらず。あげく「何  
ルームだったかいの?」佐太神  
社宮司様のご折念を頂き、記念



佐太神社の宮司様によるご折念

撮影を終えて開宴となりました。  
「皆様ご機嫌よう」の一声でつ  
かみはOK。亡くなられた先生、  
同窓生に黙祷を捧げた後、山中  
淑郎先生にお言葉を賜り感謝の  
花束贈呈、そして乾杯へと進み  
ました。クラス毎のテーブルで  
話はずみ、テーブルを離れて  
盛り上がり、欠席者からのメッ  
セージ紹介はやむなくカット。  
あつと言う間に時間は過ぎ、い  
よいよメイン企画へと司会者が  
声を張りあげます。  
「皆様、宴たけなわではござい  
ますが、ここでちょっと深呼吸。  
目を閉じて北高で過ごした3年  
間を思い出してみましよう。W  
君、目閉じて! さあ、まぶた



小豆沢恭子

の裏に浮かぶ情景は何でしょ  
う?」  
K君「女子と遊べんだった遠足」  
T君「毎日の早弁」  
そろそろ仕込みの幹事にマイ  
クを。  
Y君「学食」  
司会「打合せと違うこと言わな  
いで」  
Y君「あつ、何だったかいね?  
そうそうファイアーストーム」  
司会「そうですね。学園祭  
フォーグダンス、ファイアース  
トーム、思い出しますね。デコ  
レーションを積み上げたやぐら  
に点火したのは? そう弓道部  
の精鋭による点火式でした」  
ここで元弓道部のO君、目にも  
凛々しい道着姿で手にはゴム  
弓(危ないので)スポットライ  
トを浴びて「射シャア」、放たれ  
た矢(ダンボール製)はM君の  
手によって会場をひとまわりし  
てから、ステージ中央の手作り  
レプリカファイアーに到達。組  
み込まれたLEDにTさんがス  
イッチオン、感動の点火式とな  
りました。  
ここからは、今も現役フォー  
クシンガーマ君のギターに合わ  
せ、思い出の曲を熱唱して、気



会の締めは、もちろん校歌で!

追記「本卦選り」について、  
この度ご出席頂けなかった今岡  
稔先生から、次のようなメッ  
セージを頂きました。  
「本卦選りとは古めかしい。見  
ればわかるが自分で使ったこと  
はない。こんな言葉を見つけて  
喜ぶ文化は確かにあったわと懐  
かしく思います」  
今読み返しても思わず頬が緩  
みます。

分はティーンエイジャー。我ら  
が誇り、北高校歌を声高らかに  
歌い上げました。  
最後に、この春心筋梗塞から  
見事蘇りを果たしたN君の「今、  
この瞬間を大切に」との示唆深  
いスピーチを中締めとし、二次  
会へ、やがて三次会、ついには  
四次会へと流れていったので  
した。  
星月夜本卦選りの宴果てず  
24期生の皆様、ご帰松の折は  
是非ご一報下さい。



退任のあいさつ

前会長

庄司 肇

双松会の会員のみなさまには、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

去る7月26日に、本年度の役員会(総会に代わる)において会長を退任することを了承していただきました。後任には金津任紀氏がご就任になりました。

金津任紀氏は公私ともに多忙の中、会長を引き受けていただきました。長く副会長として会の充実、発展にご尽力いただいたお引き受けいただき、今後、金津会長を中心に本会が更に発展することを期待いたしております。

願われれば、微力ながら平成21年7月より2期6ヶ年の間、会長として大過なく務めることができ、また、一重に諸先輩、同窓の皆さん、学校の事務局の先生方のご指導の賜物であります。心より感謝申し上げます。

生のある方が言っておられましたが、卒業した校舎もなく、なつかしく思わないと……。しかし、現在の赤山の校舎には校舎移転の折、移植した樹木もありますし、起雲館(同



新任のあいさつ

新会長

金津 任紀

双松会の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本会の運営に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私は、このたび前任者庄司肇氏の勇退に伴い、借越ながら双松会の会長の職を引き継ぐことになりました。昭和40年第16期卒業生の金津任紀でございます。母校を巣立ち、ちようちよと半世紀、先輩諸氏が築いてこられた伝統を担うその重責に身の引き締まる思いであります。庄司前会長には2期6年にわたり、その温厚なお人柄と卓越した手腕で誠

窓会館)の資料室にはみなさま方の寄贈等により各時代のなつかしい資料がたくさん揃い整理しましたので資料として充実しています。各期の同窓会が行われる折などに、ぜひ赤山にお出かけいただき、なつかしい思い出に浸っていただきたいと思います。

母校と双松会の発展を祈って退任のあいさつといたします。

実に本会の運営にあたられ、会員相互の交流、親睦や関係強化のみならず、学習、部活の両面にわたり母校の名声向上に尽力されました。その功績に心から敬意と感謝の意を表する次第です。教員としての豊富な経歴や優れた見識をお持ちの庄司前会長には今後とも大所高所からご指導ご鞭撻をいただきたく存じます。

私も微力ではございますが、本会のさらなる充実発展のため、歴代の会長の思いを継承しつつ、また時代の流れや新しい視点を考慮しながら、まさに「温故知新」の考え方で

運営していく所存でございますので引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、我が母校の松江北高等学校は明治9年教育伝習校変則中学科として産声をあげ、翌年松江中学として独立し、戦後の学制改革や統合再編の歴史を経ながら4万人を越す卒業生を輩出し、「質実剛健」と「文武両道」の伝統精神は、現在まで脈々と受け継がれ、芸術文化、政治経済、教育、スポーツなど幅広い分野で牽引役を担い顕著な実績を残してきました。このことは、北高伝統の教育基本方針や校歌にある歌詞「松江北高、ここにあり」を卒業生が体現し、世の中に認められた結果であることに他なりません。こうした輝かしい歴史が伝統として受け継がれ、今日、松江北高に関わる全ての方々、誇りと誇り、来年は創立140周年を迎えることになりました。激動の歴史を経て、約1世紀半に及ぶ旧制中学時代からの伝統を次世代へと繋ぐ節目の一つであります。今後も松江北高が地域・社会を牽引するリーダーング・スクールとして世に有為な人材を輩出していくべく双松会としても活動内容をより充実させていかなければなりません。140周年記念事業の中で「世界の人類北高生!」として、地域から世界へと国際化の時代に

対応できるグローバルな人材の育成などに寄与するための活動が模索されていることもその一つといえます。

を胸に、「母校」への感謝の気持ちを持って取り組んでいく覚悟でございます。  
結びに、各界でご活躍される会員の皆様の一層のご健勝



### 創立140年、新たな時代へ

校長

泉 雄二郎

**松** 江北高の今年度入学生は新制高校第69期生です。旧制中学の最後が69期ですから今ようやく、新制が旧制に追いつきました。松江北高は、次の時代に向かって、新たな扉を開く時期を迎えています。折しも、大学教育、高校教育、その接続としての入学者選抜の在り方が、転換点を迎えています。中央教育審議会答申には、以下のように、次世代の教育に必要なことが示されています。「これからの時代に社会に出て、国の内外で仕事し、人生を築いていく、今の子どもたちやこれから生まれてくる子供たちが、十分な知識と技能を身に付け、十分な思考力・判断力・表現力を磨き、主体性を持って多様な人々と協働することを通して、喜びと糧を得ていくことができるようにすること。彼らが、国家と社会の形成者として十分な素

ご発展をご祈念申し上げますと共に、地区集会を含めた双松会へのお楽しみだけのご参加を心よりお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

養と行動規範を持てるようにすること。我が国は今後、未来を見据えたこうした目標が達成されるよう、教育改革の最大限の力を尽くさねばならない。生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、グローバル化・多極化の荒波に挟まれた厳しい時代を迎えている我が国においても、世の中の流れは大人が予想するよりもはるかに早く、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高い。そうした変化の中で、これまでと同じ教育を続けているだけでは、これからの時代に通用する力を子供たちに育むことはできない。この厳しい時代を乗り越え、子供や孫の世代に至る国民と我が国が、希望に満ちた未来を歩めるようにするため、国は、新たな時代を見据えた教育改革を「待たない」この答申を

受け、大学センター試験に代わる「大学入学希望者評価テスト(仮称)」が、平成32年度に導入される(現中学1年生から受験する)ことになりました。

創立140周年は、次の時代へ踏み出す年。これからの5年で、松江北高は、生まれ変わります。「質実剛健」の不易を継承しつつ、「昔はこうであったから。」あるいは「これまで通りでよい。」と思考停止に陥ることなく、新時代が求めることに向かって、新たな北高教育を構築すべく、教職員、生徒、保護者が一体となって歩を進めて参ります。どうか、双松会員の皆様には、これまでに、厳しく、温かく、現役を支えていただきたく、切にお願い申し上げます。

### 事務局だよの

一、「北高の緑を守る基金」へのご寄付について  
昨年、我が校の象徴である二本松の永久保存と校地の緑の維持管理を趣旨にお願いした寄付金については、7月末現在、1858名の方々より、620万円を上回る浄財を賜っております。芳名録にてお礼に代えさせていただきます。誠にありがとうございます。

二、寄付金のお礼  
次の方々より寄付金を頂戴いた

しました。ご披露に併せ厚くお礼申し上げます。  
松中54期より7万2823円  
15期より4万2968円  
24期より7万円  
36期より1万円  
44期より11万9405円  
66期より293円

三、会報編集助成金のお礼  
会報発刊に係る諸経費への援助として、5名の方から計1万6千480円の浄財を賜りました。厚くお礼申し上げます。

四、各地区の双松会の動向について  
○東京双松会の総会  
平成27年10月17日(土)  
於 アルカディア市ヶ谷  
○近畿双松会の総会  
平成27年11月29日(日)  
於 中央電気倶楽部  
○広島双松会の総会  
平成27年11月14日(土)  
於 広島ダイヤモンドホテル  
○米子双松会の総会  
平成28年2月下旬  
(詳細は後日)

五、創立140周年記念事業について  
○記念総会開催のご案内  
期日・平成28年11月12日(日)  
会場・ホテル一畑(松江市)  
来年は創立140周年を迎え、記念総会を開催します。  
詳細は来年の会報にてご案内いたします。多くの皆様のご出席をお待ち申し上げます。

○同窓生名簿「双松」発刊予定のお知らせ  
時期・平成28年10月予定  
予価・5千円

記念事業として同窓生名簿(平成28年版)を発刊します。今回は株式会社サラトに委託することになりました。  
本会報のお届けに併せ、委託業者から記載事項の照会を同封しておりますので、ご協力くださいませようお願いします。

○「世界のたれ北高生」基金のお願い  
北高では、次代を見据え、世界を視野に活躍する人材育成をめざし、留学や海外との交流等の新しい教育プログラム開発を計画し、実践に向けて動き出しています。詳細は次号で改めてご案内いたします。寄付による基金創設へのご協力をお願い申し上げます。

○会報助成金会計の報告

平成26年度 会報編集助成金会計決算書

収入総額	3,808,434 円	
支出総額	1,000,000 円	
残 額	2,808,434 円	…次年度へ繰越

<収入>		金額	備 考
繰 越 金	3,791,156		前年度繰越
援 助 金	16,480		平成26年度分(振込5件、現金0件)
雑 収 入	798		預金利息
合 計	3,808,434		

<支出>		金額	備 考
本会計へ繰入	1,000,000		平成26年度会報発行補助金として
合 計	1,000,000		

各期だより

松江高校5期  
「傘寿同窓会」に出席して

須田 信子

去る5月24日(日)「松江エクスセルホテル東急」に於いて、松江高校5期の「傘寿同窓会」が催された。

このところ足腰の衰えを感じる私ではあるが健康であることに感謝し、同窓の夫と共に出席することにした。当日は晴天に恵まれ、会場には受付開始から僅かしか経っていないというのに既に各テーブルに全国各地から馳せ参じた懐かしい顔が並び、思わず最近味わったことのない快い興奮を覚えた。全員が揃ったところで写場へ移動し記念撮影。いよいよ「傘寿同窓会」は始まった。開会の挨拶のあと、物故された友への黙祷をしたが「物故者名簿」の中に、前回京都で開催された折、松江から車に便乗させて下さった日さん、又共に隣の席で喋りながら道中したSさん、お二人の名前を見付け、驚きと共に形容しがたい寂しさに襲われた。今回は幹事さんの粋な計らいで音色は一切なく、3

人の方が順番に高校時代の思い出やエピソードを発表され、懐かしい先生方のお名前や青春時代ならではの武勇伝に拍手や爆笑が沸いた。

私たちが世代は国民学校1年生の時「太平洋戦争」が勃発し、4年生で敗戦。広島に原爆が投下された8月6日は奇しくも私の10歳の誕生日でもあった。「欲しがりません勝つまでは!!」と敗色濃い国情に添い、窮状に耐えた子ども時代であったが、誕生日から9日後、日本は敗戦の日を迎えた。

昭和26年4月、私たちは松江高校へ入学。当時は敗戦の傷跡も少しは癒えたものの、現在とは比べものにならない物質的には貧しい時代であった。その頃松江高校では「モザイク制」といって「一般社会」「国語甲」「保健体育」は共通必修教科、「一般数学」「国語乙」「英語」その他は選択必修教科として各自が自由に選択し、卒業時に必要な単位数は85単位以上とされていた。そのため「世界で一つの時間割」とか、時間毎に教室を移動するため、誰いうとなく「民族の大移動」といっていたことを懐かしく思い出す。又当時は「旧制」と「新制」の切り替わりの時期でもあったため、選択必修教科では、旧

制松江中学校、旧制女学校から移行の3年生の先輩方と共に学び、3年生に負けまいと頑張ったことも懐かしい。今年卒業後61年。思えば人生で一番勢いのあった時期を松江高校で過ごした思い出の数々。その舞台となり、今は記憶の中の川津校舎と共に忘れることはできない。今回、全国から参集した同窓生は82名。夫々健康であることを喜びあい、次回「米寿」での再会を約束し、賑々しく「傘寿同窓会」は終了した。終わりにあたってこの会の準備のためお世話頂いた幹事の皆さまに衷心よりお礼を申し上げたい。



16期同窓会のご連絡

時下皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと存じます。前回の同窓会は平成24年9月に盛大に開催されましたが、次回は来年平成28年に松江にて開催を予定しております。

古希を過ぎた方、古希を迎える方それぞれでございますが、お誘い合わせう

え一人でも多くの人のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

尚、日時等詳細につきましましては、年が明けてから葉書にてお知らせ致します。何卒よろしくお願い致します。

【連絡先】

幹事：長谷川 宏  
電話：08552212407  
メール：Nshige@nshige.org  
HP

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長  
中村 康一(高16期)

今年に入ってから、東京双松会の幹事会は、松江の話題で盛り上がっています。テニスの錦織圭選手の活躍から、悲願だった松江城の国宝指定。時を合せたかのように、7月にはNHKのシリーズ番組「100分de名著」に小泉八雲『日本の面影』が取り上げられました。9月に発行予定の東京双松会会報でも、昨年に引き続きハーンの東京時代に関

する記事を企画しています。

本年度の東京双松会総会は記念すべき第60回記念となります。終戦後10年には、すでに第1回が開かれているという事実は、140年の母校の歴史を考えさせられるとともに、東京双松会の維持継続に奮闘された諸先輩に敬意を表すばかりです。

講演は、嵯峨崎泰子氏に医師と患者の関わりについて話して頂きます。昨年に引き続き医療に関する講演です。高齢化社会を迎えて、関心の高いテーマを取り上げました。なお、昨年の講演、田平武氏の「アルツハイマー病の早期発見、予防、治療」の抄録は、ホームページ内の、第59回東京双

松会総会報告のリンクからご覧になれます。

ホームページの本年7月現在の訪問者数は、延べ2万3000名。総会報告、随筆、自由投稿、各種案内など盛りだくさんです。入会申し込みも可能です。是非一度、アクセスしてみてください。

(http://www.tokyo-soshokai.org/) 東京双松会に一人でも多くの方々が参加されますようお願いしています。

平成27年度 第60回記念総会・懇親会

期 日：10月17日(土)正午から午後3時半頃

会 場：アルカディア市ヶ谷 (私学会館) JR/地下鉄市ヶ谷駅

電 話：03326119221 徒歩2分

講 演：嵯峨崎 泰子氏

野崎クリニック副院長 (北高S59年卒・35期) 「命を託す、主治医が見つかる」(仮題)

お問い合わせ先：東京双松会事務局 〒102-0084

千代田区二番町113 「中央印刷事務器(株)内」

TEL 0332654858

近畿双松会

近畿双松会 事務局長 渡辺 悟 (高20期)

「若き川端康成が心から慕った大阪・茨木中学時代の恩師倉崎仁一郎は松江中学OBだった」。平成26年度総会の講演会講師は熊本県の尚綱大学で助教を務める宮崎尚子さんでした。残念ながら当会と宮崎さんの台縁奇縁について説明する紙幅はありませんが、川端文学の形成に甚大な影響を与えた倉崎についての研究成果は本当に面白く、110名を超える参加者一同、母校の大先輩の人となり足跡に聴き入った次第です。

また、この総会で5年間会長職を務めた押田良樹会長(高11期)が退任、新しい会長に松本耕司副会長(高16期)が就任、又、不肖、私渡辺が事務局長をおおせつかりました。当会は昭和33年に戦後の復興結成がなされてから現在57年目。母校と郷土の発展を願いながら、新体制で次の60周年に向けて活動してまいります。本年度の活動骨子は以下の通りです。近畿二府四県在住の方々のご参加を心よりお待ちしております。

平成27年度総会懇親会

期 日：11月29日(日) 午前11時～午後3時 会 場：中央電気倶楽部 (大阪市北区)

講演内容は「松江城天守国宝指定」に関連して調整中。(9月に詳細を)案内

その他の行事

ゴルフ、文楽鑑賞、歴史ウォーキング、里山ハイキング、落語鑑賞、年会報発行。

お問い合わせ先 事務局長 渡辺悟宛

携 帯：090-1449-6085 メール：s.watanabe@kousoki-officetop.jp

「近畿双松会HP」から各参加お申し込みできます。

http://www.kinki-soushokai.org/

米子双松会

米子双松会 事務局長 中西 秀夫 (高15期)

3月1日、26年総会を庄司肇双松会会長、金平憲幹理事長、泉雄二郎北高校長、森泉校内幹事をお迎えし開催しました。

今年役員改選の年で、新会長に岡美知雄氏(昭和36年卒12期)が就任しました。また、アトラクションの尺八

と筈によるジョイントコンサートでは、美しい音色に聴き惚れ、懇親会も盛会で、二次会のカラオケ大会も盛り上がり、楽しい総会となりました。

恒例の納涼会は、7月26日市内淀江町の「白鳳の里」で開催し、伯耆古代の丘公園の古代蓮や古代建築物を見た後、斎藤勝前会長の講演と冷たいビール・名水豆腐会席料理を味わいよい暑気払いとなりました。

ゴルフ部会は毎月大山周辺の3ゴルフ場でコンペを実施し、全員に賞品があり皆楽しみに参加しています。

旅行部会は10月頃にバス旅行を計画中です。



今年米子市内在住者や勤務者の方約100名に入会案内を発送し、8名の新入会がありました。どうか、同窓お仲間とお誘い合わせのうえ、米子双松会に一人でも多くの方々が参加されますようお願いしております。

連絡先

米子双松会事務局 〒689-3402

米子市淀江町淀江771 TEL&FAX 0859-156-2315

広島双松会

広島双松会 幹事長 石原 通弘 (高13期)

平成26年11月に第9回総会を双松会会長庄司肇様及び北高校長泉雄二郎様、教諭山根仁様にご臨席賜り開催し、新会長に13期卒大木洋を選任し、活動計画等を決定しました。また、島根県広島事務所長竹谷祐二様、広島矢の原会長柴田篤様に出席賜り、総会に華を添えていただきました。

設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することとされていますが、十分な周知が出来ていません。会報をご覧いただいた方、事務局へご連絡いただければ喜ばれます。



一、今年の活動計画  
 今年の活動は恒例の総会・懇親会に、納涼親睦会一回、ゴルフコンペ2回程度開催して会員の親睦を深めます。

二、役員改選

会長 大木 洋 13期卒  
 副会長 新見泰正 13期卒  
 副会長 新納慎治 23期卒  
 副会長 夏明秀嗣 25期卒  
 副会長 富岡秀樹 26期卒

三、第10回総会・懇親会

日時：平成27年11月14日(土)  
 16時～19時  
 場所：広島ダイヤモンドホテル  
 広島市西区観音新町2-4-6

四、その他の行事予定

①納涼親睦会  
 日時：平成27年7月29日(水)  
 18時30分～  
 場所：さとう広島店本館  
 「マダムシエンロン」  
 (広島市中区)

②親睦ゴルフコンペ

日時：平成27年10月3日(土)  
 場所：宮島志和カントリー倶楽部  
 (東広島市志和町)

五、連絡先

幹事長 石原 通弘  
 〒739-1742  
 広島市安佐北区亀崎二丁目29番26号  
 TEL&FAX  
 082-842-1416  
 携帯電話  
 090-9507-2312  
 E-Mail  
 ishihar2926@memail.ne.jp

北高生の活躍

島根県高等学校  
 総合体育大会結果報告

5年ぶり男女総合優勝  
 三冠達成

(男女総合・男子総合・女子総合)  
 5月下旬から6月上旬にかけて第53回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合(Aグループ)第1位となりました。また、男子総合・女子総合ともに優勝となり、三冠を達成しました。8月に近畿で開催された全国高校総体(インターハイ)に出場したチーム・選手を紹介します。

陸上競技部

男子 400m	2年 金山 陽平
5000mW	2年 泉 健太
4x4000mR	3年 佐々木茉央
	2年 金山 陽平
	2年 武田 悠真
	3年 神田 恭輔
4x4000mR	2年 石出 創士
	3年 神田 恭輔
	2年 武田 悠真
	2年 金山 陽平
女子 400m	2年 福田 翔子

文化部の活躍

県内予選を通過し、8月に滋賀県で行われた全国高等学校総合文化祭に出場した部を紹介します。

○百人一首かるた部

読手の部 2年 寺井 萌乃  
 競技の部 3年 川瀬さわ子  
 (島根県選抜チームとして出場)

○美術部

3年 柘井 遥己  
 3年 大庭 佳乃  
 3年 上田 知幸

○囲碁将棋部

将棋部門  
 男子団体 3年 渡部 詞稀  
 2年 角田 希  
 2年 本常 瑞己  
 2年 来海 裕晃

○放送部

NHK杯全国高等学校放送コンテスト  
 朗読部門 3年 佐藤穂野香  
 校内放送研究発表部門

その他の全国大会

男子個人 2年 来海 裕晃

○百人一首かるた部  
 全国選手権大会団体

3年 川瀬さわ子
3年 小松華奈子
2年 岡本真由子
2年 寺井 萌乃
2年 新延 夕佳
2年 福庭 彩
2年 川嶋 真由
2年 澤和 葵

2年 福田翔子さん  
 日本代表に!

陸上競技部2年福田翔子さんが、世界ユース陸上競技選手権大会(ゴロンビア・カリ開催)に日本代表選手として選ばれ、800mに出場しました。惜しくも予選敗退となりましたが、今後の活躍が期待される注目選手です。



総体総合優勝のときにだけ掲げられる、白地にえんじの旗が5年ぶりに掲げられました。

平成27年度 役員会総会報告

7月26日(日)15時から、サンラボ1むらくもにおいて役員会総会が開催された。庄司雅会長(北高11期)が2期6年を区切りとして勇退され、副会長を務めて来られた金津任紀氏が新会長として選出された。60名近くが出席し、会長を議長として協議・報告がなされた。

【議題】

- 一、平成26年度会務報告(承認)
- 二、同決算報告、監査報告(承認)
- 三、役員改選(承認)
- 四、平成27年度会務計画(承認)
- 五、同予算案(承認)
- 六、百四十周年関連事業について(承認)
- 七、その他

【報告】

- 一、名簿について
- 二、会報について

平成27年度双松会役員

顧問	金榮	修	(松中61期)
会長	松本	幹彦	(松高1期)
副会長	金津	任紀	(北高16期)
	山本	隆志	(松高6期)
	古瀬	誠	(北高16期)
	勝野	昌幸	(北高21期)
	菅野	恵子	(北高22期)
	河原	一朗	(北高23期)
	泉雄二	郎	(北高26期)
			(松江北高校長)
幹事	金平	憲	(北高16期)
副幹事	庄司	尚史	(北高31期)
監事	景山	直観	(北高31期)
	栗原	康郎	(北高13期)
	杉原	仲治	(北高30期)
	長廻	和助	(北高14期)
	山口	楨子	(北高16期)
	吉金	龍志	(北高19期)
	松田	優志	(北高21期)
	小原	登	(北高22期)
	玄行	寛治	(北高29期)
	林原	悦子	(北高29期)
	長崎	伸行	(北高31期)
	貴谷	敏行	(北高31期)
	馬庭	真司	(北高36期)
	田邊	雅之	(北高38期)
	岩本	立樹	(北高42期)
	武藤	宗徳	(北高43期)
	安松	寛之	(北高45期)
	中脇	寛之	(北高45期)
	多々納	雄二	(松江北高教頭)

事務局長

平成26年度 双松会会計決算書

収入総額	4,900,108
支出総額	3,929,111
差引残高	1,040,997

【収入】				
項目	予算額	決算額	増減	備考
入会金	2,293,299	2,193,420	-9,879	基へ10,967名×8100
繰入金	1,614,237	1,614,237	0	前年度繰越
貸入金	1,000,000	1,000,000	0	会務開始助成金計上
寄付金	0	272,228	272,228	松中54期(59年)前部会より24名(54期),35期(52期),44期(50年)
雑収入	549	248	-301	預金利息
合計	4,718,000	4,950,108	232,108	

【支出】				
項目	予算額	決算額	増減	備考
会務進行費	3,020,000	2,839,591	-180,409	会務印刷・募金代(27,812名)、振込印刷
記念品費	400,000	239,236	-160,764	卒業記念品・卒業証書用紙類
雑費	500,000	422,229	-77,771	会務開始への役員退任費
会務費	200,000	126,258	-73,742	会務開始、前部会費、各地分会
人件費	150,000	93,029	-56,971	役員退任費・役員
設備費	100,000	9,697	-90,303	カリフォルニア・防音機
通信運搬費	50,000	35,634	-14,366	幹事会費・資料送料
雑費	50,000	0	50,000	
予備費	248,000	0	248,000	
合計	4,718,000	3,929,111	-778,889	

監査報告

平成26年度双松会会計について、帳簿・証憑書類等を監査した結果、適切に処理されていることを認めます。

平成27年 8月 18日

監事 栗原康郁  
監事 杉原伸治

平成27年度 双松会会計予算書(案)

【収入】				
項目	本年度予算	前年度予算	増減	備考
入会金	2,245,490	2,209,200	36,290	69200×934名×12ヶ月
繰入金	1,640,537	1,614,237	26,300	平成26年度からの繰越金
貸入金	0	1,000,000	-1,000,000	会務開始助成金計上
寄付金	0	0	0	
雑収入	600	600	0	預金利息等
合計	3,285,000	4,718,000	-1,433,000	

【支出】				
項目	本年度予算	前年度予算	増減	備考
会務進行費	1,900,000	3,020,000	-1,120,000	会務印刷・募金代、記念品
記念品費	350,000	400,000	-50,000	卒業記念品・卒業証書用紙
雑費	500,000	500,000	0	各地分会への役員退任費
会務費	200,000	200,000	0	会務開始、前部会費、各地分会
人件費	100,000	150,000	-50,000	役員退任費・役員
設備費	50,000	100,000	-50,000	カリフォルニア
通信運搬費	50,000	50,000	0	幹事会費・資料送料
雑費	50,000	50,000	0	
予備費	488,000	248,000	240,000	
合計	3,285,000	4,718,000	-1,433,000	

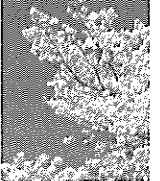
一般財団法人紅陵会

【目的】 この法人は、島根県立松江北高等学校の教育振興に関する事業を行い、将来社会に貢献し得る有能な人材の育成に寄与することを目的とする。

【事業】 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。  
(1) 島根県立松江北高等学校の教育活動に対する助成及び利用施設の提供  
(2) 高等学校を卒業した者及びこれと同等以上の学力を有する者で、大学進学を希望する者に対する施設設備の提供  
(3) 生徒の福利厚生のための学生食堂及び購買場の提供  
(4) その他この目的を達成するために必要な事業

- 理事長 金平 憲 (双松会)
- 常任理事 庄司 尚史 (双松会)
- 理事 金津 任紀 (双松会)
- 古瀬 誠 (双松会)
- 田江 泰彦 (双松会)
- 石倉 哲 (双松会)
- 泉雄二郎 (PTA副会長・校長)
- 石倉 弘文 (前PTA会長)
- 守谷 光広 (PTA会長)
- 布野 由美 (前PTA副会長)
- 監事 福田 龍太 (双松会)
- 湯原 康弘 (PTA監事)
- 評議員 松本 幹彦 (双松会)
- 安部 昭彦 (双松会)
- 小林 哲朗 (双松会)
- 庄司 肇 (双松会)
- 原 守中 (双松会)

# 本年度の進路状況



進路指導部長 大屋 和彦

2015年度入試における全国の国公立大の志願者総数は、前年から9千874人減の47万4千546人であった。これで四年連続で志願者総数は減少したことになる。志願倍率は前年の4・78倍から4・67倍となった。志願者減の主な原因と考えられるものは二つある。

一つは昨年度入試の段階で、今年度の新課程入試を見据えて、既卒生すなわち浪人生が減少したためである。現役生のセンター出願の指数は前年を上回ったが、既卒生は大幅に減少した。これが国公立大学の出願にもかなり影響した。もう一つが今年度より実施された数学・理科の新課程入試である。特に理系新課程の理科では、現役生の負担増は明らかであった上に、センター試験における旧課程科目との平均点差が大きく、得点調整が行われる結果となった。本校ではそれによる大幅な志望変更はなかったものの、全国的にはこの新課程入試の影響で理系現役生の国公立出

願に減少傾向が見られた。

系統別に見ると、文系では国際関係が大幅に増加、法学が5年ぶりに増加に転じたが、理系ではすべての系統で減少し、近年盛んに指摘されていた「文低理高」もやや沈静化した感がある。特に減少が大きかったのは薬学で、四年連続で増加傾向にあったが、その反動が見られる結果となった。

全体で変化があまりなかったのは教育、総合科学系、スポーツ健康科学であった。全体の志願者は減ったが、文理から出願できる教育系統の人氣は、資格志向とも相まってまだまだ根強いものがある。

本校の合否状況について概況をお伝えする。国公立大合格者数が現浪合わせて延べ204名、私大306名、短期大学29名、専門学校等35名という結果であった。いわゆる難関大学の合格者数は延べ39名、医学部医学科の合格者数12名(国公立大は9名、自治医大2名、私大が1名)であった。前述したように、今年度入

試は現行新課程の生徒と旧課程の既卒生が入り混じり、さらには理科の得点調整等もあって、難易度や受験生の動向が掴みにくい入試であった。そうした難しさのある入試であったにもかかわらず、生徒達はよく健闘してくれたと思う。特にここ数年は私大との併願の中で、出願していても実際に後期まで受験する生徒が減少傾向にあった。今年度は多くの生徒が、粘り強く最後まで受験に向かってくれた。何よりも評価に値する部分であると思う。

今、大学そのものが大きく変わろうとしている。各大学は明確なアドミッションポリシーを示すことを求められ、中には選抜の際に、多角的に生徒を評価する姿勢を打ち出しているところもある。また、言語教育に力を注ぎ、外部試験の成績を積極的に活用したり、海外留学を義務づけている場合もある。

また、長期に渡って実施されてきた大学入試センター試験に代わる新テストの導入に向けて、いよいよその内容や形式、実施方法についての本格的な議論が活発化している。今の社会で要求されているのは、そうした変化に柔軟に対応する適応能力、仲間と共

に問題解決に当たるための協調性とコミュニケーション能力、そして何よりも挫折に負けないたくましさ、失敗しても挑戦できる人間としての強さだと思う。北高での日々の学習や部活動、その生活全てが生徒達を育ててくれると信じている。今春巣立った生徒達も時代の変化に翻弄されることなく、しっかりとした足取りで成長を遂げてくれることを願うばかりである。

## 進路状況

平成27年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(平成27年4月集計)

卒業生	平成25年3月			平成26年3月			平成27年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	127	38	165	128	46	174	143	30	173
公立大学	25	6	31	22	6	28	26	5	31
私立短期大学	179	106	285	221	128	349	230	76	306
専門学校等	45	2	47	30	2	32	29		29
就職	13		13	20		20	35		35
合計	2		2	3		3			0
クラス数	391	152	543	424	182	606	463	111	574
	8クラス			8クラス			8クラス		

### 編集後記

台の上の双松もお蔭様で元気です。多額の「緑を守る会」基金を寄せて頂いた事に心よりお礼申し上げます。お手植えの松をはじめ、西川津からの松達も綺麗に剪定する事も出来ました。そして来年はいよいよ140周年です。松中最後が69期ですので新旧半々の年です。松中卒6849名、松高卒7234名、北高卒2万9639名、通信卒5531名、5万人の卒業生を抱える双松会ですが、問題も山積みです。約300名の新卒業生の入会金が収入の基ですがどう考えても不足です。これからは会報助成金を始め卒業生の皆様のご支援無しでは双松会は成り立ちません。今後はお願いする事ばかりになると思っております。そして会にいかにか若い方々が入って頂き活躍して頂けるかです。赤山から卒業された世代にどうバトンを渡すかが問われておりますが、松が一本になり大変だと若い卒業生の方からも基金を頂き少し安堵しております。西川津卒の皆様も是非一度赤山に上がって下さい。起雲館の芝蘭(しらん)室に入って自分の卒業写真等有ることをお確かめ下さい。高校生当時の皆様の姿がこの部屋にあります。女学校の茶室も二つあります。茶道部の皆さんとお手前されませんか。最後に双松会「緑を守る会」の口座はゆうちょ銀行01340141103237で、何時でも皆様の厚情をお待ちしております。宜しくお願ひ申し上げます。又、新しい名簿も出来ませす。是非お買い求め下さい。(金平記)